

平成30年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	新生会	
事 業 名	先進地視察 小諸市の野生鳥獣対策 永続的な鳥獣対策を目指して	
事 業 区 分	① 研究研修	② 調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市における有害鳥獣防除対策事業費は報奨金を中心に増加傾向にあり、また、他自治体同様に捕獲従事者（猟友会員）は高齢化・減少が進んでいる。小諸市の野生鳥獣対策は農林水産大臣賞を受賞するなど評価されていることから、上田市の有害鳥獣対策も持続可能な取組にすべく、参考としたい。

2 実施概要

実施日時	視察先	小諸市役所、小諸市野生鳥獣商品化施設
平成31年3月22日(金) 9:30~11:30	担当部局	経済部 農林課 野生鳥獣専門員 竹下 毅 氏

報告内容・感想（まとめ）・市政に活かせること

1 捕獲数向上と有害鳥獣被害軽減に向けての小諸市のこれまでの取組

【背景】鳥獣対策を行う猟友会員の減少による捕獲圧の低下をサポートするため、平成23年に野生鳥獣専門員を雇用し、専門員と狩猟免許を所有する市職員からなる鳥獣被害対策実施体を結成。猟友会は主に大型獣の捕獲、実施隊は主に小・中型獣の捕獲を行う分業体制とした。これにより特に中型獣による被害額が減少したが、一方では猟友会委託による許可捕獲の問題（人材不足、意識のズレ、法令順守）が明確になったため、猟友会依存型から脱却し、「許可捕獲」は小諸市（行政）が責任を持って行うよう小諸市野生鳥獣対策実施隊を再編成した。ワナの設置や見回り、事務局への連絡は捕獲部が担当し、事務局（現場確認、止め差し、搬送、記録等）は専門員と地域おこし協力隊2名で構成されている。

【メリット】捕獲従事者の負担軽減（公務災害補償、情報伝達の迅速化、大型獣個体処理をしないで済む）、ICT機器などの利用による捕獲効率の向上（現場の状況把握、見回り負担軽減）、捕獲従事者の利益向上ならびに法令順守（報償費の値上げ、お金の流れの明確化、ルール違反者は除隊）、捕獲数向上と被害軽減（ニホンジカ捕獲数平成25年53頭→平成28年311頭、被害額平成25年3.1百万円→平成27年1.5百万円）

【デメリット】錯誤捕獲個体の増加、捕獲経費の増加（報償費、処分費）

2. 小諸市野生鳥獣商品化事業（平成28年度～）

【経費削減とシカの有効活用に向けて】平成26年度長野県で捕獲された約4万頭のシカの内、ジビエとして利用されたのは4%であり、現状ではジビエ料理の需要が捕獲数に追いついていないため、ペットフードの製造事業を検討。一般のペットフードに比べるとコスト高になるため、「付加価値」を付けた商品とし

て販売することを決定。

付加価値とは？

- ・ 個体管理（いつ・どこで・だれが 捕獲した鹿なのか？）
- ・ 衛生管理された加工施設（平成 27 年度地方創生交付金 5 千万円で小諸市野生鳥獣商品化施設を整備）
- ・ 鹿肉の持っている栄養素や特性
- ・ 商品が作られた背景⇒売上金の一部は管理捕獲等、環境保全事業に利用

【現状と今後】平成 28 年度、29 年度の事業損益は赤字だったが、焼却処分する場合と比べた場合は、それと同等かそれ以下に収まる実績。平成 30 年度 3 月 18 日現在、シカの解体数 900 頭、ふるさと納税件数 275 件（小諸ブランドのペットフードとして商品開発し、返礼品として利用）、食肉ジビエも販売開始し約 19 万円、ペットフード販売約 1,500 万円、事業損益約 180 万円の黒字。ペットフード向けは国内及び中国向け需要多く、ミンチ B を 600 円/kg で販売。平成 31 年度は現場作業者を増員するため、処理能力が更に向上するため、上田市に対して 10 頭（今年度実績）以上持って来て欲しいとの要望あり。当事業のポイントは猟友会とのコミュニケーション、適正処理、（適正価格の）売り先の確保とのこと。

4 まとめ

- ・ 上田市の平成 31 年度の有害鳥獣対策事業費は 5 千万円超。小諸市の専門員の知識・経験にも頼りながら、上田市の実情（捕獲従事者、有害鳥獣など）に合わせた対策を、猟友会を始めとする地域の方々と考え、小諸市の施設の更なる利活用も視野に、現状の埋設処理以外の持続可能な事業を検討されたい。
- ・ 猟友会の抱える課題への対応、委託方法や報償金の流れ等も再度確認することが必要。



* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

発生する排ガスは、ろ過式集じん器等の導入により環境負荷低減を実現している。

・リサイクル施設は、埋立ごみの中から鉄やアルミなどの資源物を回収、またペットボトルとプラスチック製容器包装を機械と人の手で選別し再資源化している。

・環境学習の場として、焼却施設管理棟2階には幅広い世代の方に対応可能な研修室や展示フロアが設置されている。

・ごみ焼却で発生する余熱を有効利用した、焼却施設管理棟3階にある職員用浴室を市民の皆さんに開放している。(1回100円)

・剪定枝チップ化施設では、一般家庭で発生した剪定枝を小さく破碎しチップとして再生し、希望者に無料配布している。(御代田町からの剪定枝も有料で受入れている)

■その他：・ごみ処理施設の建設と運営には、地域住民の理解と協力が不可欠と考え、建設事業をはじめにあたり建設候補地を公募した結果、8ヶ所から応募があった。そして「建設候補地検討市民会議」を組織し検討して決定した。施設計画の策定においても「市民検討会議」を組織するとともに、地元の皆さんの意見を計画に反映させるため「菱野区ごみ焼却施設検討委員会」を組織していただく。

・1炉としたのは処理量とコスト削減であり、メンテナンスや修理は稼働時間以外と、ストックヤードを大きくするなどに対応可能とした。

・ストーカ方式としたのは、焼却規模(処理能力)とメーカーの実績等から。

・小諸市の人口は減少しているが、ごみの量は増えている。これは、核家族化に伴い家庭数が増えていることが要因と考えられる。

■まとめ：・上田地域広域連合が計画している資源循環型施設に比べると、処理能力的には大分小さくなるが、稼働3年ほどの最新の施設を見ることができ大変参考になった。

住民が日々入浴施設を利用でき、また道路に面した場所にリアルタイムで排ガス状況を確認できる公害監視盤が設置されているなど、地域に開かれたクリーンな施設であるという印象を受けた。又、生ごみの分別により水分がないことは、施設の内外において異臭はない根拠ではないかと感じた。最新の施設の効率化と、施設建設にあたっての取り組み方について検討されたい。

